

## 諸鈍芝居

【所在地】大島郡瀬戸内町諸鈍（諸鈍芝居保存会）

【種別】国指定無形民俗文化財

【指定年月日】昭和51年5月4日



奄美大島の南に大島海峡をはさんで東西にのびる加計呂麻島の東南部にある瀬戸内町諸鈍で伝承されている民俗芸能である。旧暦8月15日の豊年祭と、旧暦9月9日の大屯神社の例祭に公開される。大屯神社は諸鈍の鎮守神社で、平家の落人平資盛をまつると伝えられている。

踊りはイッソーから始まる。鉦・太鼓・三線（三味線）を先頭に、踊り人たちが行列をつくって、大屯神社境内にシバ（木の枝）でつくられた楽屋に入る。次に楽屋から長者の大主といわれる老翁が現われて祝福の口上をのべ、終ると次々に紙の面をつけ黒い衣、白の股引をつけた踊り人たちによって「サンバトウ」（三番叟）、平敦盛をしのぶ「ククワ節」、『徒然草』の作者吉田兼好を題材とした「ケンコウ節」、座頭の川渡りを表現した「ダットドン」、美女玉露カナの物語を扱った「玉露カナ」という人形劇や「タカキヤマ」、「スクテングウ」などが演じられる。

奄美各地に伝わる豊年祭の芸能が基底となり、大和の能狂言、沖縄の芸能などが加味されて成立した野外劇である。